

一般質問

市政を問う



たらの芽の出荷作業のようす

環境保全型農業への取組みについて



荒川 栄悦 議員 (清風会)

問 環境保全型農業への取組みは。

答 環境保全型農業への取組みの第一歩として現在、農家、営農組合と連携し、

堆肥による肥料代替技術実証の試験圃場を設定し、栽培試験を始めている。その結果を踏まえながら、適切な施肥設計等の検証を行い、コメ、大豆、麦その他の品目についても市堆肥センターを活用する取組みを進め、更なる耕蓄連携・循環型農業を推進し、付加価

値の高い農産品の生産へと結びつけ、農家収入の増を目指す。また、(仮称)「環境保全型農業研究会」と言うような組織を立ち上げ、アストを拠点として、研究・情報交換が出来る体制を作ると共に、各種制度の研究・検討を行う。さらに、情報発信の仕組み作りを積極的に進め、新たな遠野スタイルの環境保全型農業の展

開に挑戦して行く。
問 遠野市観光協会の法人化による観光推進は。
答 法人化の方向はこれからの検討課題である。市としては当面、観光協会との連携のもと、マンパワーの結集により観光振興を図るとともに、観光協会のさらなる組織強化に向けた取組みに対して支援をして行く。また、中心市街地活性

農業分野に将来を担う若者を呼び込む対策は



菊池 巳喜男 議員 (清風会)

問 農業者の平均年齢は65歳で若い年代での就農率は年々減少の一途をたどっている。若者が農業を営む環境を整えて、若者定住対策を講ずることにより「百億円プラン」も盛り上がるの

ではないか。
答 A S T支援事業により、生産拡大、販売額増、コスト低減、新規参入等で成果を上げているが、今年度の就農支援として、A S T起農塾を年3回程度開催し、新規就農者の掘り起こしを行う。また、集落営農組織も重要と考えており、支援や指導を強化継続する。

問 市有林は概ね2千haと聞いているが、その中には元学校林が地域に点在しており、その後、学校再編成等で多くが市に寄付され、今、半世紀経過し伐採時期を向かえているが、当時の関わりのある地区に何らかの還元は考えていないのか。
答 ここ数年、立木売却収入は落ち込んでいるが、基金として積み立て除間伐等の経費に充てている。今後

は、市全体の産業振興等に活用する事としたい。
問 原付バイクや小型特殊自動車のナンバープレートを民話の里にふさわしい河童の「かりんちゃん」の顔の形や、南部曲り家の形など、ユニークで遠野をアピールし親しみを持てる独自な形に考えてはどうか。
答 ナンバープレートに付加価値を付けて情報発信する事は有効な手段であり検討していきたい。